GOGO 高校大学

朝中高特派員

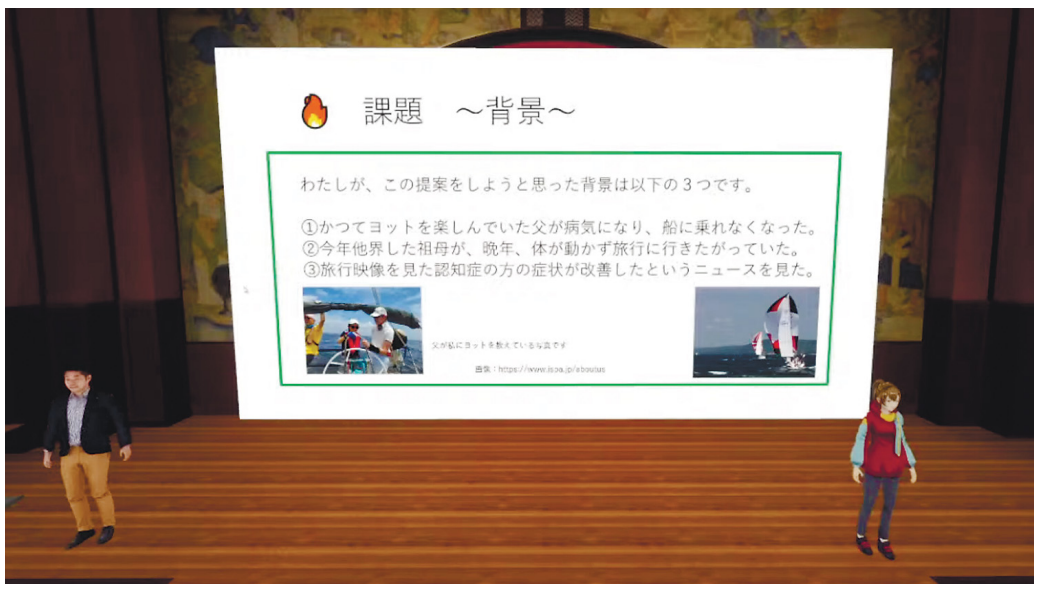
座間耀永（ざまあきの）さん（東京・高1）

東大メタバース工学部で受講体験

匿名＋アバターで交流・発表

10月9日号の紙面で取り上げた東京大学の「メタバース工学部」。読んで興味を持った朝中高特派員の座間耀永（ざまあきの）さん（東京・高1）は、実際に「起業」がテーマの講座に参加しました。バーチャルで学ぶ場ならではの体験や気づきがあったそうです。

（構成・平松利津子、松村大行）



「起業入門」講座で、メタバース空間で発表するようす（右が座間さんのアバター）＝当日の動画から

「起業」テーマにバーチャルで

東大のメタバース工学部は大学の授業とは別に、年齢や性別にとらわれず、誰もが平等に学べる場をつくる取り組みで、この秋に開講しました。講座のほとんどがオンラインのバーチャル空間で開かれています。来年度も開講予定です。

注目すべきは中高生が無料で参加できるジュニア工学教育プログラム（ジュニア講座）です。これから大学生になる世代に工学や情報の魅力を伝えたいと「デザイン×工学」「オリジナルUSBメモリを作ろう」などの講座が用意されました。

座間さんは、朝中高の記事を読んでその存在を知ったほか、高校の「情報」担当の先生からもお知らせがあったそうです。将来の夢は大使館員なので、「工学部は自分には向かない」と考えていましたが、「起業入門」という講座があると知って心が動きました。「高校生が東大の講座に参加できることがうれしかったですし、バーチャルの空間に入れることにもひかれました」

10月に始まった講座は全5回で、日曜日の夜に約1時間ずつ開催されました。YouTube の生配信で東大の吉田晏准（よしだあきのぶ）教授の講義を受けながら、意見が書き込めるシステムを通して発信もしました。それぞれの人の意見に「いいね」をつけることができ、人気ランキングも発表されます。顔が見えないため、ほかの受講者がどんな人で、何人いるのか分かりませんでしたが、「書き込まれたアドバイスやヒントは、資料作りの際に生かしました」。

回を重ねながら起業のアイデアをまとめていき、最終講義では優秀者6人が発表。座間さんもその1人に選ばれました。東大のシンボルの建物を再現した「バーチャル安田講堂」の壇上に、アバター（分身）の姿で上がりました。「東大生でもなかなか入れないという安田講堂で発表できたのは夢のようでした」

壁面に資料を大写しにして発表したのは「メタバース旅行で世界を救う」。家族が自由に体が動かせなくなり、旅行に行けず残念がる姿を見て、「体は動けなくても、心は旅行に行きたい人もいる」と思い立ちました。

そこで、その人の思い出に残る「手作りで味のある映像」を用意し、楽しんでもらうことにビジネスチャンスがあるのではないかと考えました。起業するには、お金を出してくれる投資家のことを考えることが必要だと気づき、実際にビジネスに携わる知人に相談をしたそうです。

中1のアイデアに舌を巻いた

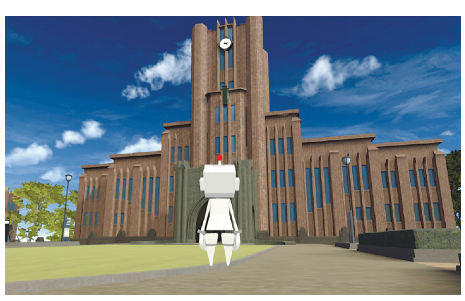
座間さんはアバター姿ながら、発表のタイミングで初めて実名を明かしました。発表者には自分より年上の大学院生、さらには小学生の子どもといっしょに参加しているお母さんもいました。印象に残ったのは中1男子の発表でした。自身の祖母が携帯電話などのパスワードをよく忘れるため、パスワードをまとめるアプリを開発するという内容に「具体的で発想がすごい」と舌を巻きました。

座間さんはリモートでの授業も経験してきましたが、「バーチャルの世界の方が、より交流しやすいと感じた」といいます。

講座でいろいろな人の話を聞くことで視野が広がり、プレゼンテーション用の資料をまとめる力や自己アピール力にもつながったと座間さん。今後は「吉田准教授や講座を受けた人と顔を合わせて交流したり、朝中高特派員として取材をしたりしてみたい」そうです。

◇

東大メタバース工学部のジュニア講座ではこれから募集が開始される講座もあります。参加は無料。詳しくはHP（https://www.t.u-tokyo.ac.jp/meta-school）まで。



「バーチャル東大」で描かれている安田講堂＝2021年8月　東京大学提供

座間さんからメッセージ

私は数学が苦手で、記事を見たとき、「工学部」まして「東大」なんて縁が無いと思っていました。しかし、どうしても気になり、内容を見たところ、「これなら自分もできる」と意を決し、２回目から参加。結果、思ってもみなかった優秀者に選ばれました。「挑戦」をしてよかったと心から思っています。私のモットーは、「進みながら強くなる」です。何事も「まずやってみる」が大事だと思います。みなさんも、興味のある講座があれば受講してみてはいかがでしょうか。

15歳 ふせん開発Story

4 おしゃれな店に並ぶ

商品の一つひとつに背景

樫原優衣（かしはらゆい）さん（神戸大学附属中等教育学校５年）が考案した、復習する日が一目でわかるエビングハウスフセン。製造や販売の壁を乗り越え、今はオンラインショップを中心に販売しています。（中田美和子）

２千部のふせんが届いたものの、何軒もの店で取り扱いを断られ、販売のメドはすぐには立ちませんでした。風向きが変わったのは地元の新聞の取材を受けてからです。使ってみたいという声がたくさん届きました。

学校では学年全員に配り、アンケートを取りました。忘却曲線について初めて聞く子も多く、古典と英単語の学習で効果が上がった、もっとカラフルにしたら、折れやすいから切り取り線はないほうがいいなど改善案も上がりました。

本格的な販売に向けてパッケージを考え直しました。忘却曲線や使い方の説明を載せる必要があったからです。専門技術を持つ人を探せるサイトを通じてデザインを依頼。コンセプトや売りたい相手をはっきりさせ、デザインの方向性を決めていきました。

今年３月に販売がスタート、４月には特許も取れました。商品を扱うオンラインショップの一つ choose base は東京・渋谷に実店舗があります。お店のようすを見にいった樫原さんは「おしゃれなものと一緒に並んでいて感動した！」と言います。

開発を通してさまざまな業界で働く大人と話し、「商品の一つひとつに、かかわる人たちのいろいろな思いがあることがわかりました」。

タイトル・イラスト　オオシロアサホ

自身も受験を控え、がんばるみなさんにエールを送ります。エビングハウスフセンの贈答用パッケージにはこんなコピーをつけました。

「キミの努力を無駄にはさせない」

◆来週から「異能」の若者の連載を始めます

エビングハウスフセンは choosebase（https://choosebase.jp/）などで販売しています

「朝日中高生新聞 2022年11月27日付」無許可転載は禁止